

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4076100207		
法人名	有限会社 福寿草		
事業所名	グループホーム 福寿草		
所在地 (電話番号)	〒820-0703 福岡県飯塚市北古賀731番地3 (電話)0948-72-5558		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年12月1日	評価確定日	平成21年12月11日

【情報提供票より】(平成21年11月16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤(専任8人 兼務1人) 非常勤 2人 常勤換算6.1人	

(2)建物概要

建物形態	単独型	築 4年
建物構造	木造り	
	平屋建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 10,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(平成21年11月16日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	0 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低 75 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	永吉医院 ・大田外科 ・塚本クリニック ・大塚歯科 ・筑豊病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな山間の、日本の原風景を思わせる四季折々の景観の中を訪れた人々に、感動と元気を与えてくれる環境の中に、グループホーム福寿草がある。管理者の「安心と安全で、楽しく、笑顔で、穏やかに」という熱い思いを職員が理解し、実践に向けた努力が始まっている。年々身体機能が低下されていくなかで、利用者の楽しみの昼食が始まると、9人全員が自力で時間をかけてでも食事をし、ご飯のお代わりをされている様子は感動的である。ホームの横に住居がある管理者は、利用者の日々の生活を職員と共に優しく見守り、24時間365日健康管理体制が出来ている。また、町内の老人会、子供会の行事に利用者と職員が参加したり、近隣のグループホームの利用者と職員を招待して合同のフラダンスや歌、日本舞踊等を楽しみ、地域との交流が始まっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は9であったが、全職員が頑張って5件が改善出来ている。今後は「自己評価作成に職員が参加し、評価の意義を理解していく」「人権教育・啓発活動」「食事を利用者と職員と一緒にとり、検食をして、味や硬さ等を記録しておく」「災害に備え、非常食、飲料水、毛布などの備蓄」等の取り組みが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が一人で作成している。管理者は、毎月のミーティングや日常業務の中で、職員の気づきや意見を聴き出し、改善に向けた取り組みをしている。今後は職員一人ひとりが分担して自己評価を作り、全員で話し合い、まとめて作成して行くことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に、利用者、家族、民生委員、行政職員、ホーム職員が参加して開催している。現状と行事予定等を報告し、出席者から、質問、要望、情報提供等活発な意見が出されている。会議がマンネリ化しないように、新しい議題やテーマを作り、参加者を増やし、ホームの運営を推進する有意義な会議に発展していく努力が望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置し、内部、外部の苦情相談窓口を掲示している。毎月の支払は家族持参であるので、家族来訪時、職員は利用者の心身の状態やホームでの暮らしぶりを詳しく報告している。また、お茶を飲みながら親しく会話し、利用者や家族の不安、不満、要望等を聴き出し、運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の一員として、行政の会議に出席したり、利用者と職員が回覧版を回したり、町内の夏祭りや子供会主催の廃品回収に積極的に参加している。また、地域の高齢者の相談を夜間も行い、地域住民との交流で、信頼関係が始まっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	慣れ親しんだ地域の中で、利用者がその人らしさを尊重され、楽しく笑顔で穏やかに安心して安全な生活ができる家づくりをめざすことを、わかりやすい言葉で表現した理念になっている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの名称である福寿草が描かれた色紙に分かりやすく表現された理念が、居間の中央に皆の目が留まる位置に掲げられ、常に振り返りができるようにしている。理念が実践できていない場合はお互いに注意し合ったり、ミーティングで取り上げたりと理念の実践に向けた取り組みをしている。		
	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、利用者と職員と一緒に回覧板を回したり、行政の会議に出席し地域の一員として様々な活動に参加している。老人会や子ども会主催の夏祭りや廃品回収などにも積極的に参加している。ホームの管理者は一人暮らしの高齢者の夜間の相談にも対応し、地域の人と支え、支えられる関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の課題は9項目であったが、管理者を中心に記録類の見直しと簡素化などに取り組み5項目は改善された。今回の自己評価票作成にあたっては管理者が状況を把握し作成した。職員全員が評価の意義、活用法を理解し取り組むまでには至っていない。		自己評価は、日頃のサービスの振り返りや見直し、自覚を促す機会にもなりうる。事前に全職員が評価のねらいや活用方法などを話し合いし理解したうえで、一人ひとりが分担して、作成するなどの取り組みを期待したい。
	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、利用者、家族、民生委員、市役所職員をメンバーに開催している。取り組みや現状報告の他に、家族の意見を積極的に聴き、出された意見は話し合い、介護サービスに反映させている。地域の理解と協力を得る貴重な会議であるが参加メンバーが固定化されつつある。管理者は、テーマによってはオブザーバーとしてメンバー以外にも働きかけることなど検討している。		
	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃からホームの状況を伝えたり、担当職員と共に介護サービスの質の向上に向けての取り組みをしている。月に一度、市の介護相談員制度も活用し、利用者、家族の相談に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	<p>権利擁護に関する制度の理解活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>日常生活自立支援事業や、成年後見制度に関する研修に参加し理解を深め、現在制度を利用されている利用者に対応している。また、必要に応じ、利用者、家族に情報提供をしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用料はあえて振込みをさせ家族に持参していただくなど、報告の機会を多く持つようしている。家族の来訪時には、利用者と共にお茶やコーヒーでもてなし、リラックスした雰囲気の中でホームでの様子などを伝えている。ホーム便りの発行も検討中である。</p>		
9	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議、外部の苦情相談窓口の紹介、意見箱の設置など利用者、家族が苦情や不満を表せる機会を設けている。家族の来訪時には積極的に意向を聴き、ミーティングで話し合うなどし、サービスに反映させている。</p>		
10	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者の離職時、一時利用者の動揺も見られたが再び元の管理者が復職したことで、現在は落ち着いた状況にある。勤務年数の長い職員が多く、職員の異動時は勤務のローテーションを考えるなど利用者へのダメージを防ぐ取り組みをしている。</p>		
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が充分に保障</p>	<p>職員の採用時には、年齢、性別など制限はしていない。定年制を設けず、意欲のある職員は経験と力を活かしながら働くことが出来るような取り組みをしている。職員の休憩室、休憩時間も確保されている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりくんでいる</p>	<p>理念に、「その人らしさを最大限に尊重し」と掲げ、職員は利用者に対し言葉使いや態度で実践している。外部の人権に関する研修に参加している職員はいるが、伝達講習をし職員全員が知識の共有をするまでには至っていない。</p>		<p>研修参加で得た知識や体験を、伝達講習で伝えたり研修記録として残すなど、共有化する取り組みを期待したい。</p>
5. 人材の育成と支援					
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加の機会は多くないが、研修時は勤務扱いで参加できるなどの配慮がされている。新たな資格取得をめざす職員には、勤務のローテーションが考慮されるなど資格取得を勧め支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、研修会を実施したり、お互いのグループホームを相互訪問したりして、ホーム以外の情報も参考に運営に反映させている。また、近くのグループホームの利用者、職員を招き歌や踊りを楽しむなどの機会も設け、利用者の日々の生活の活性化を図るのみでなく、意見交換の場となっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までの生活様式、時間の過ごし方など入居後もなるべく継続できるよう、契約までに入居希望者の自宅を訪問し把握している。また、利用者、家族に納得いくまで来所して、ゆっくり時間をかけて入居に至るように支援している。入居後も、今までの生活のペースを大切にしながらホームの生活に馴染んでもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に利用者、家族の立場に立って支援することをモットーにして、管理者の想いを職員も共有し、利用者と同じ目線で接している。掃除、食事の準備、後片付け、漬物作りのこつなど利用者から学ぶことも多く、共に支え、支えられる関係を築いている。		
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常に利用者と同じ目線を合わせ、利用者の意向を把握しながら支援している。利用者の希望であっても健康上受け入れられない時など、納得されるまで時間をかけて話し合うことも多い。利用者の訴えにはその場で対応し後回しにしないなど心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画立案時は、利用者、家族、職員と話し合い意見や意向を反映した計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを実施し、利用者の状態に変化が見られたときはその都度見直し、常に現状に即した計画にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のかかりつけ医への受診支援、看取り時に遠方の家族への宿泊室の提供、一人暮らしの高齢者に対する夜間の相談受付など利用者や家族、地域の高齢者の要望に応じた支援をしている。また、広い敷地を活かした外での食事など利用者の要望に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を大切にかかりつけ医への受診支援をしている。ホームでの定期的な訪問診療も行われ、利用者が安心して受診できる体制にある。利用者の急変時には隣接する敷地に居住している管理者が24時間対応できるシステムがとられ、利用者、夜勤者にとっても心強い。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、ホームで出来る範囲を家族に説明している。看取りの指針はないが、最期までどうしてもホームで見て欲しいと望まれている家族もあり、希望を綴った文書と署名を貰っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室の入り口にも名札をつけず目印のぬいぐるみを下げるなど、個人情報の保護には細心の注意をはらっている。職員は利用者の尊厳に配慮し声かけや支援をしている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、利用者のペースを大切に支援している。利用者全員が食堂で皆と一緒に食事を楽しみ、時には2時間ほど時間がかかることがあるが、急がせず個々のペースを大切に見守っている。食事以外でも、利用者の自己決定を優先し支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が自然体と一緒に食事の準備や後片付けをしている。食事が楽しみなものとなるよう、時にはベランダで焼肉をしたり、広い駐車場にシートを敷き、自然の中で食事を楽しんでいる。職員は、一緒に食卓を囲みさり気なく必要な支援をしている。		職員と一緒に食卓を囲み、和やかな雰囲気会で話をしながらの食事であるが、職員は皆弁当持参である。全員が利用者と同じ食事を摂るのが難しいのであれば一人でも検食をし、味付けや、硬さ、量など把握されることを期待したい。
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回入浴日としているが利用者の状況に合わせて入浴日や入浴時間を変更することもある。広々とした浴室の横には、ゆったりとした洗面台つきの脱衣場が設けられ、入浴を楽しむことが出来るよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園での野菜作り、漬物作り、掃除、食事の準備と利用者の自主性や興味を尊重し支援している。小遣いや携帯電話を自己管理している利用者には、出来る限り楽しみごとを奪わない取り組みをしている。縫い物が趣味の利用者には針や鋏が自由に使えるようにしているが、安全管理はさりげなくしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	居室全てが自由にベランダや広い駐車場など戸外へ出られる造りになっている。敬老会からの誘いやお寺参りなど個別に対応すると共に、全員でドライブに出かける機会も設けている。車椅子利用者が多く全員一緒にの遠出が難しくなりつつあり、管理者はどのような支援方法があるのか検討している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室、ベランダを取り巻くフェンスの扉など全てに鍵をかけていない。いつでも自由に戸外に出られる環境にあり、職員は一人ひとりの外出傾向を把握し、さりげなく見守りをし、束縛することなく安全を確保している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で、地域の協力を得られるよう、近隣家を訪問し災害時の協力を呼びかけている。居室全てが広い駐車場に面し居室から外へ自由に出られる造りである。消防署への通報装置も設置されているなど安全に関しての取り組みはされているが、夜間を想定した避難訓練や備蓄はされていない。		隣接地に代表者や管理者の住居があり、近隣との協体制もとられているが、夜間を想定した避難訓練を定期的にも実施されることが望まれる。また、非常災害時に備えた毛布や食料品や飲料水などの備蓄を検討されることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況に応じ、とろみをつけたり、きざみ食にしたりと必要な栄養量が摂れるよう支援し、摂取量を記録している。前回の評価の課題であった水分摂取量の把握と記録については、記録の工夫をし、一目で一日の摂取量がわかるような記録様式を作り上げ活用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の素材がふんだんに使われた共用空間は、広く明るく落ち着いた雰囲気である。掃除の行き届いた玄関や廊下にはゆっくり出来る大きな長椅子が置かれ、居間に隣接する広いベランダからは遠くに山並み、眼下に田園が望め、四季を肌で感じることができる。壁には、楽しそうな利用者の写真が飾られ、ホームでの生活の様子が伝わってくる。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外はすべて利用者の馴染みの家具や持ち物が置かれ、居心地よく過ごせるようになっている。掃きだし窓から自然の光が差し込み、周囲の景色を眺めながら日向ぼっこを楽しむこともできる。ベランダを取り囲むフェンスは自由に開け戸外に出られるようになっている。		